



TITLE:

ミラム教授夫妻を迎えて

AUTHOR(S):

山本, 一清

CITATION:

山本, 一清. ミラム教授夫妻を迎えて. 天界 1928, 8(83): 83-84

ISSUE DATE:

1928-01-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161235>

RIGHT:

に受ける事が疑はしいなれば白紙或は硝子に倒に寫る焰の像で可なり正確に焦點決定が出来る。硝子が細かい程正確で巧に行えば球面半径1センチまでは決定出来、好都合に行けば豫定の焦點距離の數ミリまで一致せしめる事が出来る。此の方法は迅速で計算を要せず且つ必要程度に正確である。カセグレイン凸鏡の如きは盤の凹面の方で測る。筆者は豫定の焦點距離の二三ミリ以内に一致せしめた例は多くもつて居る。

御願ひ 材料購入を度々依頼されますが、都合によつて一切御断り申します。(筆者)

ミラム教授夫妻を迎へて

山 本 一 清

去る十二月30日、同志社のミス・デントンから電話で「二三日前からミヤコ・ホテルに Professor Milham さいふ米人天文學者が来て宿泊してゐるから會つて下さい」さいふ傳言があつた。ミラム教授ご聞くと、直ぐ自分は米國で一二度出會つたこのある Williamstown 學院の天文教授を思ひ出したので、なつかしく思ひ、直ぐ又電話をホテルにかけて同氏を呼出したところ、都合好く室に居られ、電話口に出られた。そこで歓迎の意を表し「明日大學天文臺で御目にかゝりませう」と約束して置いて、すぐ此の事を新城教授にも電話で知らせた。

米國 Williams College は Massachusetts 州の西北端の Williamstown にあつて、同市の開拓者 Ephraim Williams 大佐(1715-1755)記念のため 1793年に West Hoosac Free School を改名して設立されたものであつて、米國大統領 James A. Garfield は實に此の學院の出身である。最近1924年からは此の學院内に Institute of Politics さいふ夏期大學が開かれ、世界各

國から有名な學者や政治家を招いて公開講座を設けてゐる。日本からは1924年に鶴見祐輔氏が招かれて行つたこゝは我が國內に於いて既に廣く知られてゐる所である。

此の學院の天文臺は、1836年に第四代の總長 Mark Hopkins の盡力によつて「ホプキンス天文臺」(Hopkins Observatory) といふものが設けられ、Clarke製の「 $7\frac{1}{2}$ 吋」屈折式赤道儀が置かれたが、其の後、1882年に「フィールド記念天文臺」(Field Memorial Observatory) といふものが前者の西7キロ程離れた所に設けられ、天文設備は皆此所に統一されると共に「4吋」のRepsold 製子午環が据え付られた。しかし、元來、學生教育を主としてゐる天文臺であつて、研究は餘りやつてゐない。現今の天文臺長 Milham 教授は1893年に同學院を卒業して歐洲に遊學し、Strassburg や Toulouse 大學で研學した後、母校に歸つて教鞭を取つてゐる。——自分は先年在米中一二回の天文會合に於いて Milham 氏に出會つたところがあり、同氏の紹介で同氏自著の Time and Time Keepers といふ時計學の書物を購求したところがある。

約束により、翌31日朝九時、自分は自動車を携へて Milham 氏夫妻をホテルへ迎へに行き、案内して、九時半に大學へ來た。新城教授も此所で面會され、暫く話した後、吾々は大學天文臺内の望遠鏡や圖書室等を見せたそれから一行四人で比叡山ケーブル電車に乗り、山上のレストランで晝食し、午後二時下山、其のまゝ再會を約して、ホテルへ送り返した。

翌(昭和三年)一月一日午後6時、こんどは Milham 教授夫妻の招待を受けて新城教授と英子と自分と三人はホテルへ行き、晚餐を饗せられた——Milham 氏夫妻の談によれば、夫妻は學院の賜暇を得て世界一週旅行を思ひ立ち、Dollar 線の汽船で、New York 發、Panama 經由、Honolulu を經て神戸に來られたのである。今後は支那印度あたりを見物の後、歐洲各地の春を訪ひ、夏の初め Williamstown へ歸られる筈である。